

実証実験を北見消防署東出張所地域に拡大

情報共有システム「北まるnet」



際に携帯端末を通じて傷病者の情報をすばやく検索できる救急隊連携システムも構築。救急隊員が現場到着前に傷病者の情報が得られることから、迅速な対応が可能になる。

福祉・介護施設関係者ら対象に説明会

昨年7月から実証実験を先行スタートさせた北見自治区の消防署西出張所エリアでは、救急搬送の時間短縮につながるなどの効果が表れているという。

この日、会場

の北見医師会看護専門学校には40人余りが参加。同システムへの情報入力の方法などを学んだ。

(前)

北見市医療福祉情報連携協議会（古屋聖児会長）は、来年1月にも医療・福祉の情報共有システム「北まるnet」の実証実験エリアを拡大する。16日、新たな対象地域となる北見消防署東出張所エリアの福祉・介護施設関係者らへの説明会が開かれた。

関や福祉施設の患者、利用者の同意を得て病気や薬、介護サービス、かかりつけ医、緊急連絡先などの情報を登録し、市内の医療・福祉・介護にかかわる各機関がデータを共有。急病時にインターネットを通じて患者の情報を入手し、救命措置などに活用する。

同システムは医療機

消防が救急搬送する